

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 **小羊学園**

〒431-1304

静岡県浜松市北区細江町中川7440-1

電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849

E-mail kohituji@imix.or.jp

H.P http://www.imix.or.jp/kohituji/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2007年5月20日

第 292 号

主に望みをおく人は新たな力を得、驚のように翼を張って上る

理事長 稲松 義人

十戒という映画(一九五七年、米国)をご存知でしょうか。旧約聖書にある出エジプトの物語を映画化したもので、名優チャールトン・ヘストンがモーゼ役で主演した壮大な宗教スペクタクル作品です。聖書を読み、イスラエル民族は何度も民族移動を繰り返してきたことがわかります。民族をあげて大移動するにはそれなりの理由があったので、大飢饉のよう自然環境との闘いであったり、周辺民族とのトラブルであったり、どちらにしても相当の苦境に立たされたからこそ、民族移動することになったと思われるのです。そして、そのような民族移動の物語は偉大な指導者の物語であったり、不甲斐ない権力者の歴史であったりするようです。出エジプトとと言われる民族大移動を率いてきた偉大な指導者モーゼが、神の民として生きるために神から示された十の掟が「十戒」です。しかし、モーゼは神の約束の地(民族移動の目的地)を目の前にして、天に召されます。そして、後継者となったヨシユアは戸惑いますが、そのヨシユアに対して、神は「うるたえてはなら

ない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。」(ヨシユア記)と呼びかけた」と聖書に記されています。

小羊学園の移転改築が目前のこととなり、この福祉制度が大きく変わりつつあるこの時期に、しっかりとやりとげることができるようか、新しい施設に移った後は、思い描いたような実践が展開できるのだろうかなどと、あれこれと思い巡らしてしまう自分は、約束の地を前にし、いよいよヨルダン川を渡るだけとなってからなかなか決断のつかないヨシユアに似ているかも知れないと思いました。

とには戻れないのです。さて表題の聖句ですが、一昨年、静岡市に開設した重症心身障害児施設「つばさ静岡」の名称を決めるときに引用した旧約聖書のイザヤ書の一節です。初めて地元浜松市を離れ、新しい土地で施設を開設することになったということでは、社会福祉法人小羊学園にとって初めての大きな挑戦でした。

社会福祉制度改革が進み、将来を見通すことの難しい中において、所長を担ってくれる医師の招聘の困難さや、建築の準備が進み始めた段階で敷地を変更せざるを得ないような事態に直面したことなど、何度か窮地に立たされたながら、開設されました。どんなに困難な状況にあっても、神様を信頼して希望をもって前進するとき、きっと新しい力が与えられ、私たちが再び上昇(前進)することができるとい思いから、「つばさ」という名前をつけました。

移動の物語は偉大な指導者の物語であったり、不甲斐ない権力者の歴史であったりするようです。出エジプトと言われる民族大移動を率いてきた偉大な指導者モーゼが、神の民として生きるために神から示された十の掟が「十戒」です。しかし、モーゼは神の約束の地(民族移動の目的地)を目の前にして、天に召されます。そして、後継者となったヨシユアは戸惑いますが、そのヨシユアに対して、神は「うるたえてはなら

実は、少人数の生活単位にすることも、日中活動のためにどこかに通う生活することも、一二年半前に亡くなられた山浦俊治理事長や、退職された前任の戸田施設長の頃から話されてきたことでした。私自身もそのことを実現するために施設長になったつもりでした。確かにこの一二年間にも法人全体としては様々なことがありました。しかし、それに対応しながら一方では新しい時代の小羊学園へのステップに向けて、実践を通しての取り組み、経済的にもそれなりに準備をしてきたつもりでした。十分ではないかも知れませんが、私たちがの計画(小羊学園児童寮・青年寮の改築)は、現実のものとなるうとしています。もう、あ

事業展開をするとき、あるいは私たちの人生には、常に予想外のことが起こりがちです。そして私たちはそのことにうるたえます。しかし、本当に大切なことをしっかりと見据えて、粘り強く前進するとき、やがては必ず道は開ける。そんな確信をもつことこそ、今求められていることなのだと思うことにしました。表題の聖句は「走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」と続いているのです。

新年度の就任挨拶に代えて

二〇〇七年度は、おおぞら療育センターの運営を聖隷福祉事業団へ移管したことや、渡辺禎子さんが退職されたこと、社会福祉制度が大きく変化していることなどを受けて、小羊学園の運営する組織を改めました。それぞれ新しい役割を担うことになった立場から四人に文章を書いてもらいました。

(理事長)

次代を拓くための課題

事務長 山崎 陽司

仕事の間をおおぞら療育センターに移し四年間を経て、再び小羊学園(児童寮・青年寮)の事務長として戻ってきました。一方で、法人の理事として全事業に対しての責任を負う立場であると同時に、小羊学園移転改築準備室担当という役割を担うことになりました。今年度の小羊学園の大きな事業計画は、何といたってもこれまで永年願い続けてきた小羊学園の移転改築計画の実現です。その実現に向けて、今法人全体が一つになって努力して行かなければなりません。そこで改めてこれか

らの課題を整理したいと思います。

一、明確な資金計画

社会福祉の制度や診療報酬の改定に伴い、法人の各事業運営はかなり厳しい状況にあります。その中で大きな事業計画をもつことは、非常に勇気のいることであります。借入金返済計画を含めた明確な資金計画を確立することが重要です。

二、各事業の経営の安定化

法人内の各事業は、決して大きな収益を上げられるような事業ではありません。中には基準を超えた職員を配置しなければいけない事業所もあります。そんな状況の中で人件費の抑制も含めた各事業の経営状況の安定化を図る必要があります。

三、小羊学園を支える会の強化

改築計画の自己資金および借入金の返済において、経営努力だけでは成り立たない部分を皆様からの寄付金に頼らざるを得ないのが現状であります。これまでも小羊学園は本当に多くの方々から支えられて来ましたが、このことから感謝しております。先日、創設者の山浦明子さんが天に召され、小羊学園を支える会の今後のことが心配されます。ここでもう一度、小羊学園を支える会のあり方を再検討しなければなりません。

四、支援体制の確立

この度の改築計画の設計は、小羊学園が四〇年間知的障害者の支援を行ってきた経験を踏まえて、住居部分は全館ケアホームのような小舎制としました。そこで暮らす人たちのクオリティを高めるために、支援のあり方・勤務体制の工夫等十分な検討と実践とを欠かすことが出来ません。それぞれの職員の意識と支援技術を磨いていかなければなりません。

五、家族会との信頼関係

施設で生活する人の生活の質を豊かにすることは、そのご家族の願いでもあると思います。この度の改築計画の中で、施設を利用人たちの生活がどのようなものになっていくのか、よく説明し、理解をしていただかなければなりません。できれば一緒に施設を創っていくというお気持ちになってくださるとうれしく思います。

法人事務センター

センター長 池谷 慎人

福祉業界全体が大変革の中にあり、さらに追い討ちをかけるように障害者自立支援法が施行され、各施設の事務業務にかかる労力は、一昔前に比べ非常に大きくなってきており、事務職に対する専門性が強く求められているのが現状です。そのような状況の中、各施設の事務業務(主に財務、労務、人事、広報)を法人事務センターに集約させることにより、各施設の事務の負担を少しでも軽くするとともに、法人全体の経済状況や人事労務管理等の把握を容易にすることを目的として、昨年度より法人事務センター化構想を計画し、今年度より運営していくことになりました。

新法の施行や法改正により社会福祉法人を取り巻く環境は、年々厳しさを増してきており行政からの縛りが緩和されてきている半面、自分たちのことは自分たちで責任をもって行っていくかなければ、たとえ社会福祉法人であっても淘汰される時代です。施設を利用する方たちが安心して利用できることを第一に考え、将来を見据えて法人運営の土台をしっかりと固めていかなければならないと考えています。

法人事務センターなどという大げ



さに聞こえますが、改めて建物を建築したわけでもなく社会福祉法人小羊学園が所有する既存の建物を使用し、職員も必要最低限（私を含め三人）に抑えて細々とスタートしました。まだ産声を上げたばかりで手探りの状態ですが、将来的には法人全体の中核を担う重要な機関としての役割を果たし、誰がいつどのような形で抜けても崩れない強固な組織として築いていきたいと思っています。まだまだ課題は山積みですが、慌てず焦らず一つずつ積み上げていくつもりです。

どうか皆さん暖かく見守ってください。そして、よろしくお願い致します。

アグネス、アグネスみなみ

所長 雨宮 寛

この四月より地域療育支援センターアグネスの所長に就任いたしました。以前アグネスには、相談支援員として二年程関わった経験があります。当時は、支援費制度が始まり相談支援センターの役割が、認知されクロースアップされ始めた頃でした。相談者からの依頼の中で走り回っている姿勢は、今も変わりありません。しかし、相談機関や施設、学校、行政も含めたネットワーク化は、その頃とは比べ物にならないほど進み、相談支援センターの役

割も大きくなっているように思います。また、アグネスは、前任者たちの努力の中で、在宅障害児・者とその家族からも大きな信頼と期待を頂けるようになってきたと感じています。

四月より政令市に移行した浜松市において、南区にあるマルカート内に「アグネスみなみ」を新たに開設することになりました。これまでも限定した地域で事業を行ってきたわけではありませんが、より機能的に相談を受けやすくなるのではないかと考えています。より幅広い役割と大きな責任を担うこととなりますが、これまで同様、常に利用者（相談者）にとって必要とされる相談機関でありたいと考えています。



障害者自立支援法の中で相談機関の役割は、とても重要視されています。しかし、サービス提供事業者や障害を持つ人たちにとっては、とても厳しい状況になっていることも事実です。その中で、利用者のニーズに添いながら利用者（相談者）自身の力を発揮できる相談支援のあり方を模索していかなければならぬと思っています。利用者（相談者）と一緒に悩みながらも、よりよい支援を探して行きたいと考えています。

小羊デイケアホーム

施設長 出水 巖生

小羊デイケアホームは、在宅で重い障害を持つ方たちが日中に通う場所として小羊学園で始められた最初の通所施設です。昭和六三年に活動をはじめ、翌年（平成元年）に重度障害児者生活訓練ホームとして県より認可を受けました。その後、地域の中で多様なニーズに対応するために平成一七年に支援費制度に合わせて「知的障害者デイサービスセンター」に施設種別を移行しました。私は、このときにそれまで勤務していました小羊学園青年寮からデイケアホームへ異動しました。今回、長く勤められた小羊学園青年寮に併せ小羊デイケアホームの施設長もしておら

れた渡辺禎子さんが退職された後を受けて、私がデイケアホームの施設長の責任を担うことになりました。

デイケアホームで勤務した二年間、特に障害者福祉分野においては大きな変革の時期でもありました。基本理念や方針が新しい用語で示され、事務手続きが変わり、多くの情報が交錯しました。昨年、障害者自立支援法の施行により、デイケアホームも生活介護事業所という新しい体系の施設へ移行しました。勿論サービスの中身が見直され、その質の向上の為に整えられてきている点もありますが、その反面、戸惑うことも多くありました。

自立支援法施行の中で、「利用者主体」は直接利用者と関わる現場の中では最も大切な理念です。多くの情報の中で戸惑うことがあっても、目の前の利用者に向き合う時、自分たちにはこのことが大切なのだということを、しっかりと認識する必要があります。デイケアホームの施設の目的・方針の中に「生きがい高める」という言葉がありますが、通所施設という特性を考えると、利用者の一日の生活の中で日中の過ごし方をいかに充実できるかという意味では、施設の担う役割はとても大きなものであると感じます。どんな障害を持っていても、ここに通ってくることが楽しいと実感でき、その人の「力」になれるような存在になりたいと思っています。

平成一八年度 共同募金受配報告

昨年度の共同募金の受配を受けて、使用頻度が高いためたびたび不具合が生じていました大型洗濯機を新しくすることができました。毎日の生活には欠かせないもので、新しい洗濯機を入れることができホッとしています。ありがとうございます。

総事業費	一、七〇一、〇〇〇円
共同募金	一、二七〇、〇〇〇円
自己資金	四三一、〇〇〇円



いのちの輝きと出会う

夏のアルバイト募集

養護学校の夏休みの間、小羊学園では、子どもたちへの支援のスタッフが不足します。この期間、お手伝いいただける方を探しています。時給はいずれも八〇〇円です。勤務日、勤務時間は相談に応じます。ご関心のある方、ご連絡お待ちしております。詳しくは面接にてご説明させていただきます。

② 児童寮での支援

内容…入所している人たちの主に日中の生活支援。

期間…七月二五日～八月三一日

時間…午前八時～午後六時

場所…浜松市北区細江町

連絡先…小羊学園（山崎、又は稲松）

電話（〇五三）四三七一〇八二六

③ ドルチェの夏休み支援

内容…アンサンブル江之島（南区役所隣）での学齢児童支援事業。ドルチェでの夏休み支援

期間…七月二五日～八月三一日

（但し、八月八日～二五日は除く）

時間…午前九時～午後四時

場所…浜松市南区江之島町

連絡先…マルカート（古橋）

電話（〇五三）四二七〇七〇六

① 夏期特別デイサービス（児童寮）

内容…在宅の知的障がい児の日の中活動支援。

期間…八月八日～一五日

時間…午前八時半～午後五時

場所…浜松市北区細江町

支える会だより

4月28日 41周年創立記念感謝祭

昨年40周年に比べると少し落ち着いた雰囲気でしたが、例年のように学生のボランティアさんに助けられ楽しい集いになりました。アトラクションとしては、昨年も出演してくださった聖隷クリストファー高校吹奏楽部の演奏に加え、今年初めてお願いした、ダウン症の方たちによるダンスユニット「ウィディー」によるダンスが披露されました。歌と踊りは、小羊学園でもたくさんの人たちが楽しめます。当日はお天気にも恵まれ心地よい春の一日をすごしました。

2007年度小羊学園を支える会寄付金報告

4月分 48件 787,991円
皆様のご支援に心より御礼申し上げます。

小羊学園改築計画にご協力ください

（口座名義）「小羊学園を支える会」
郵便振替口座 00890-4-45415
りそな銀行浜松支店（普通）040005
静岡銀行細江支店（普通）043483

問い合わせ先：小羊学園
〒431-1304 浜松市北区細江町中川 7440-1
電話 053-437-0826

つばさ静岡・看護師募集

引き続きつばさ静岡の看護師を募集しています。看護師の仕事として一般的な病院での看護と違い、最も重い障害のある人たちの生活の場で、看護師さんにはできない医療的な介護をする仕事です。このことを大切に感じてもらえる方のお申し出をお待ちしています。入退所が少ないので、利用者さんとの心の交わりが感じられる職場だと思っています。どうぞご関心のある方、ぜひご一報ください。

連絡先 つばさ静岡

（静岡市葵区城北一七）
電話（〇五四）二四九二八三〇

担当：羽山（事務長）

編集後記

私自身の段取りの悪さのため、四月に書いてもらった原稿をやっと形にすることができました。原稿を書いてくれた人たちと、お読みくださる皆様には本当に申し訳ありません。

自分たちの力は本当に小さくて、結局は時代の大きな流れの中に生かされていることを感じます。現場にいる職員も同じように、目の前の一人ひとりのことを大切にしなければならぬと思うほど、十分にできない苦しみを噛み締めているようです。そんなとき、皆様から寄せられる励ましと慰めの中に希望を示されます。これからもご支援くだされば幸いです。